

添田町の特徴と過去の災害

添田町は森林が83%を占め、遠賀川水系彦山川をはじめとする多くの河川が流れており、これらの河川に沿う一帯は、古くから農耕地として開けています。

また、中元寺川・今川にはダムが建設され、洪水期の水量調整や農工業用水、飲料水としても利用されています。

近年では、平成29年7月九州北部豪雨や平成30年7月豪雨、令和5年梅雨前線豪雨など、多くの災害が発生しており、本町でも災害による被害が発生しています。気候変動に伴う災害の激甚化・頻発化が言われており、過去の経験だけに基づいて災害の程度を判断するのではなく、ハザードマップなどに示された想定被害に備えることが重要です。



平成29年7月九州北部豪雨

添田町防災ハザードマップの使い方

STEP 1

災害を知る

地震や風水害の災害特性を掲載しています。

●災害の特性を確認 (P1～P5)

地震や風水害の災害特性を知り、安全な避難行動につなげましょう。

STEP 2

リスクを知る

洪水・土砂災害ハザードマップや我が家の安全対策等を掲載しています。

●自宅とその周辺の危険な場所等を確認 (P6～P38)

洪水・土砂災害ハザードマップで自宅の位置に○を付け、周辺に洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域など、雨が降ったら危険になる場所がないか確認しましょう。

●とるべき避難行動と安全対策を確認 (P39～P40)

「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、自宅周辺の災害の危険性やとるべき避難行動を平常時に確認しておきましょう。

STEP 3

対応を知る

避難の基準となる警戒レベルや情報の入手先、避難所一覧を掲載しています。

●避難に関する情報を確認 (P41～P44、P47)

身の安全を守るためには、正確な情報を把握して早めの判断・行動を心がけることが大切です。テレビ、ラジオ、インターネットなどで防災気象情報や避難情報を入手しましょう。

●避難先・避難経路を確認 (P45～P46またはP6～P38)

避難所一覧で避難先を確認し、洪水・土砂災害ハザードマップに○をつけましょう。あわせて避難先までの安全な避難経路を確認しましょう。
※避難先は安全な場所であれば、自宅や親戚宅、友人宅でも構いません。

●マイ・タイムラインで確認 (添田町ホームページ)

マイ・タイムラインは、大雨や台風などの自然災害から、自身を守るための防災行動計画です。事前に家族の避難計画をまとめておくことで、いざという時にあわてず行動ができます。災害に備え、家族で「いつ、だれが、どう行動する」か話し合っておきましょう。



地震発生時のタイムライン

まずは自分の身を守る

- 机の下に入る。 ●クッションや雑誌などで頭を保護する。
- 家具やガラス面から離れる。



緊急地震速報

地震発生後、大きな揺れが来る数秒～数十秒前にテレビ・ラジオ・携帯電話などに警報を発表するシステムです。震源に近い地域は、緊急地震速報が強い揺れに間に合わない場合があります。



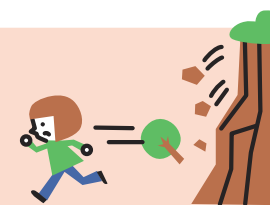
こんなときは

人が大勢いる施設では

むやみに移動すると混乱をまねくおそれがあるため、係員の指示に従い、落ち着いて行動。

山やがけ付近では

落石やがけ崩れに注意。



路上にいる！

窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。

注意 ブロック塀、自動販売機には近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。



車を運転している！

ハザードランプを点灯させ、徐々にスピードを落とし、道路の左側に止めエンジンを切る。がけや橋などの危険な場所にいる場合は、早く脱出する。

注意 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。



エレベーターの中にいる！

すべての階のボタンを押して、停止した階で降りる。

注意 閉じ込められても無理に脱出しようとせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。



揺れがおさまったらまず火の始末

- 脱出口を確保する。 ●火元を確認する。
- 家族の安全を確保する。 ●靴をはく。



隣近所の安全確認・火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかける。 ●余震に注意する。
- 非常持出品を用意する。 ●近所に火が出ていたら初期消火。



正しい情報を入手

- 正しい情報をつかむ。 ●電話は緊急連絡を優先。
- 家屋倒壊などの危険があれば避難。



協力して消火・救出・救護活動

- 壊れた家には入らない。
- 救助活動は一人ではなく複数で行う。



地震発生

発生から
1～2分

発生から
3分

発生から
5分

発生から
10分～